

外大から国際協力の舞台へ

講演者：岩橋立朗氏

独立行政法人国際協力機構(JICA) 中南米部 中米・カリブ課

文責：永井哲平

草案作成：林優太朗



今回は、昨年 9 月に本学を卒業され、独立行政法人国際協力機構(JICA)に入構された岩橋立朗氏をお迎えし、ご講演いただいた。岩橋氏は 2008 年 4 月に本学外国語学部スペイン語学科に入学、2012 年 9 月に卒業された。3 年次にはスペイン・バルセロナに留学、卒業後の半年間にはアメリカに短期留学されていた。学生時代はあまり勉強しておらず、ひたすら部活や世界各地への旅行、その資金を工面するアルバイトに明け暮れていたという。

JICA の仕事の概要

JICA は開発途上国と日本の懸け橋となって開発支援を行っており、日本の政府開発援助(ODA)の実施機関として世界の約 100 か所に拠点を置く。JICA では現場からの声を聴きながら、協力して問題解決を図れるよう努められている。衛生面や教育面、貧困、紛争など途上国には様々な問題がある。例えば後発開発途上国においては、5 歳まで生きられない子供たちが 1,000 人当たり 153 人いるという。この数値は日本のおよそ 40 倍であり、識字率に至ってはおよそ半分しかない。戦後復興期の日本も、国際社会からの支援により発展し、現在の日本の繁栄に至った。グローバル化が進んだ今では食糧問題や感染症問題、気候問題など様々な問題がある一方、他国の繁栄は自国と切

っても切り離せない関係にある。民族、宗教、性別、世代、障害を越えてすべての人々が自立し、課題を解決するために、JICAは1人1人に確実に届く協力を目指している。

JICAはその支援にあたって様々なスキームを持っている。第一に、技術協力である。開発途上国の人材の育成、制度をつくるための専門家の派遣や研修員の受入れ、あるいは機材の供与などが行われる。この例として挙げられるのが、東ティモールにおいてコメ収穫量を増加させるため、日本が用水整備や田植え方法の改善を行ったことである。結果収穫、収入が増加し、人々の生活水準が向上した。ガーナにおいては、ギニアワームという寄生虫撲滅のため、青年海外協力隊が原因となる飲み水の浄化法、濾過法を村人に教え、感染者の治療をサポートしている。JICAは年間1万人以上の専門家やボランティアを世界各地に派遣している。以下の2種類の資金協力によって設備が完成したとしても、それを操り、管理維持の出来る専門がいなければ継続的な発展には繋がらず、その意味で技術協力は非常に重要である。

第二に、有償資金協力(円借款)である。開発資金を緩やかな条件下で貸し、経済成長に役立つインフラ整備などに貢献する。イスタンブールでは第二ボスポラス大橋や地下鉄の整備が行われ、経済効果が期待されている。インドでも大気汚染への配慮や交通渋滞の改善のため、都市鉄道(デリーメトロ)の整備が行われている。エジプトでは風力発電施設の整備が行われており、60,000世帯の電力をまかなうことを目指している。

第三に、無償資金協力である。所得水準の低い開発途上国に対してはこれが行われている。毎年サイクロンによって甚大な被害を蒙ってきたバングラデシュには、サイクロンの情報を早期に把握する気象レーダー施設5基や、100か所にわたる高床式シェルターが整備された。現在はアフリカに対して多く実行されている。

その他にも、海外諸機関への投融資、災害時等に迅速に派遣する国際緊急援助隊、より良い援助の仕方を研究するJICA研究所、発展途上国からの研修員(技術者や行政官など)の受け入れと日本における研修、世界の現状を、体験学習を通じて学ぶために東京と名古屋に建設されたJICA地球ひろば、個人ボランティアを志願する人との出会い、指導の場の提供、専門家の派遣など、国際協力に関する種々の活動を行っている。

ODAには二つの目的がある。一つには、貧困、紛争、エイズ、金融危機、気候変動、教育といった世界にある様々な課題に対して援助を行い、「国際社会の利益」に貢献するということであり、もう一つには、「日本の利益」への貢献である。つまり、援助によって途上国が発展し、情勢が安定すると、安定的にエネルギー、食料、労働力、衣服などを得ることができ、これは資源や労働力の不足している日本にとって必要不可欠なものである。政府開発援助大綱では、ODAに関して「国際社会の平和と発展に貢献し、これを通じてわが国の安全と繁栄の確保に資すること」と記されている。

バングラデシュの交通事例を例にとってみる。車や自転車、歩行者が道路にあふれかえっている状況下で交通を整理するためには、様々な方法(信号を置くなど)があり得るが、国民の税金を利用する以上、最も有効となる手段を選ばなくてはならない。バスの優先レーンを作る事業に、世界銀行やアジア開発銀行が着手していたために、JICAはメトロの建設と、運営する手段、方法を伝える技術協力により援助を行った。こうしたプロジェクトを計画・実施するために重要なのは、多くの援助形態のなかから適切なものを選択し集中して援助すること、持続可能な制度・体制を構築することである。

岩橋氏と JICA

岩崎氏が 1、2 年の時は、フライングディスク部、アルバイト、飲み会などに明け暮れ、単位だけはしっかりと取得していたが今が楽しければよいといった風に日々を過ごしていた。3 年次の留学を通じ、現地の人々の日本人に対する扱いの良さや、涙を流しながら東日本大震災に対する募金活動をしてくれる人の姿を見て、日本のために働きたいと考えるようになった。また旅行を通じて、日本だけが幸せになるのはよくないという考えが芽生え、日本と世界の利益のために働きたいと思うようになった。しかしこのことはどのような企業に入社したとしても実行できることだと考え、あえて第一志望の会社は決めず、自分が何をしたいかを軸に据えて、「第一志望群」を決定していた。

JICA には大きく分けて、世界各地にある在外事務所、地域の視点から課題を考える地域部、各問題別に考える課題部、人事や経理を行う官房系の 4 つがあり、岩崎氏は中南米部中米・カリブ課の地域部に所属し、援助方針の策定と案件の形成をされていて、グアテマラ・ニカラグアの国担当と円借款によるホンジュラスの水力発電事業を担当されている。

岩橋氏が抱えている仕事の一つにグアテマラにおける地熱開発事業がある。1970 年代にグアテマラで行われた最初の地熱開発調査も JICA の支援の下で行われた。現在グアテマラには 2 機の地熱発電機が稼働しているが、さらに 1 機増設して欲しいというグアテマラ政府の要望により円借款による案件を形成している。現在は案件仕込みの段階にあり、グアテマラ全体に電力を供給する国営の電力公社の総裁を招聘し協議を行ったり、案件に興味を持った日本企業に向けてセミナーを実施したり、グアテマラ本邦での地熱、省エネに関する研修でのコンタクト、現地での電力公社とのコンタクトや現地視察を行い、事業化に向けた調査を実施している。この後は、2015 年 4 月まで調査を行い、同年 5 月に審査を行ったうえで、同年 7 月に事業を行う旨の事前通報を行うという。

JICA に入構した新人 28 人はそれぞれ 7 月から 10 月にかけて別々に海外新人研修に出かけた。岩橋氏はペルーで固形廃棄物処理事業に取り組んだ。無秩序に捨てられたゴミの山のなかで、鉄くずを不法売買する人々や、農場がないためそこで薬品を与えて豚を肥えさせている畜産農家を見て衝撃を受けたという。米州開発銀行(IDB)と協調出資して 44 億円の円借款を行い、各地にゴミ処理場を建設したほか、ボランティアの派遣、ペルー本邦における研修を開催するなど課題解決を目指した。また、ペルー財務省で研修を行ったり、JICA 農業プロジェクトを視察、被益者の生活を体験したり、青年海外協力隊野球隊員の活動を補助したり、現地に溶け込むためにアルティメットを利用したりした。

新人研修を終えた岩橋氏は 12 月 1 日から 13 日にかけてグアテマラ、ニカラグアへ初出張を行った。例えば 12 月 5 日の例をとると、グアテマラにおいて世界銀行、米州開発銀行、国営電力公社、財務省、国営電力公社総裁、インフラ省次官との協議を行うなど、1 年目の新人でも多数の高官と協議するチャンスが与えられている。

岩橋氏は自らの今後の目標についてもおっしゃっていた。現在はスペイン語が使えるのみであるが、今後はエネルギーセクターやファイナンス、人材マネジメント、民間連携事業などを勉強しキャリアを積むと同時に、途上国問題が解消された後に自分がなすべきことを考え、JICA の外部でも通用するような人材になりたいとのことであった。

最後に受講者へのメッセージを頂いた。岩崎氏自身は、学生の間にもっと勉強しておけばよかつ

たなと思うことはあるが、興味のあること、やりたいことを本気で考えて全力で実行することが大
学生生活の充実につながっていくとのことであった。

質疑応答

Q. 問題の発見から案件形成に至るプロセスを詳しく知りたい。また新人職員の位置づけや持つ裁量
について知りたい。

A. JICA の援助は原則として途上国からの要請に基づいて行われるのだが、技術協力に関しては、
毎年要望調査がある。作成されたロングリストを基に JICA 内で検討を重ねショートリストを作
成し、外務省に持ち込み、外務省や関係省庁が採択するというのが一連の流れ。円借款事業はよ
り複雑で、案件の調査が事前に必要で、さらに実行可能性を調査し、調整を行うファクトファイ
ンディング調査を行い、JICA 内の理事まで案件を通し、外務省、財務省、経済産業省に対し協
議を行い、許可が下りれば JICA 内で審査を行う。審査に通ったら通報を行い、関係政府同士で
交換文書を結び、契約が結ばれる。無償資金協力は「両者の中間ぐらい」とおっしゃっていた。
自分の持っていた裁量に関してだが、裁量はなく、現地の様々のものを見学し、やりたいことが
あれば提案する、という形であった。

Q. JICA の海外投融資は民間の投資とどのような形で異なるのか。

A. 投資のスキームは同じだが、JICA の場合は途上国の利益になることを正当化する必要があるこ
と。当然お金が返ってくることを期待する必要はあるが、まずは途上国。

Q. 数多ある国際機関の中で、外務省所管の JICA にしかできないことは何か。

A. 「所管」とは少し違い、何をするにも外務省の許可が必要なわけではない。国際協力銀行は途上
国開発よりもむしろ日本の利益を強調して日本企業と共に参入するし、日本貿易振興機構は輸出
や貿易の面で途上国ないし先進国に利益をもたらすものだが、JICA は様々なスキームを持ち、
国全体を見て問題解決に取り組むことが出来る点が魅力である。

Q. 海外新人研修の中で自分が次第に改善していったこと、印象に残ったこと、今の仕事に生きてい
ることがあれば知りたい。

A. 改善していったのは文章の書き方。議事録などが下手で駄目出しを食らっていたが、社内広報に
レポートが載る程度にはなった。読んでもわからなかった文章が研修を通じて内容が想像できる
ようになった。その点で理解力、構想力がついたと思っている。

Q. 途上国にも困窮者は多いが、案外日本にもそのような人は少なくない。日本の直面している問題
に対して考えていることが知りたい。また自分に足りないものは何か。

A. JICA の役割として、日本のマイクロなところに踏み込むのは難しい。しかし中小企業を支援する
JICA の新しいスキームが出来ており、日本各地の技術を海外に輸出することで地域の活性化に
貢献するとともに途上国の発展に貢献出来る。例えば、道の駅の文化など。個人的には日本の問

題に目を向ける必要があり、円借款による儲けで中小企業支援をするスキームなどを考えていく必要があると思う。勉強しておくべきだったこととして、マクロ経済や法学をあげるが、外大の授業は多様であり、いろいろな授業にもっと積極的に出ていればよかったかなと思っている。

Q. 部活での経験が生かされている場面はあるか。

A. 仕事では、常識的な判断や人への思いやり、忍耐などが当たり前のものとして求められている。チーム意識を構築できたのは部活の経験を通してだし、根性が身についたのも部活のおかげだと思う。

Q. 発展途上国の援助慣れを防ぐために何がなされているか。

A. 技術を根付かせる技術協力が最も有効。より多くの援助を求めるのはおかしい。自分たちで問題を解決できる技術を持ち、モチベーションを上げることが重要である。なるべく簡単な技術を使用するというのも一つの方法である。

Q. 専門としてプロジェクトに関わることは出来るか。全員がジェネラリストとして関わるのか。

A. JICA ではジョブローテーションが出来るので専門性が身に付きにくい。今では専門性を身に着けるべき、という動きもある。管理職ではエキスパート職群とマネジメント職群が選べ、前者では専門性のある分野の中での部署異動が可能だし、専門的な知見を活かすことが出来る。スペシャリスト同士が一緒に働ける環境はまだ整っていない。

Q. グアテマラの事業には日本企業はどのようにかかわっていたのか。

A. 地熱開発に関しては日本に優位性があり、高い技術を持つ。50メガワットを超える電力量でなければ日本企業は受注できないため、その協議も行われた。日本企業の被益を考えた協議がなされた。

岩橋氏は今回、二つの目的を設定して講演してくださった。第一に、在学生と同じ視点で JICA の仕事の概要を伝えること、そしてもう一つに、学生生活を考える上での一つの参考になることの二点である。今回の講演後では学生からは以下のような感想が聞かれた。岩橋さんの講演を聞いて、国際協力に興味があった。自分の力で途上国の人々の生活が少しでも向上したら達成感を感じられる。地元にも JICA があり、身近なものであったが、いまいちどんな仕事をしているのかわからなかったのも、多くを知ることができ満足した。JICA で働くことにも惹かれた。地元の JICA で働けたら、地元にも帰れるし、世界とも繋がることができ、魅力的だ。部活での経験が仕事でも生きるという話を聞いて頑張ろうと思えた。技術だけでなく、人としての常識や思いやりを育ててゆきたい。自分の専攻語を生かした職種につけているのを見習いたい。今回の講演で、学生たちは JICA の活動についてより深い理解を得られたと思われる。